

映像学科

学科理念・教育目標

映像学科では、総合的造形教育と社会に対する広範な知識の教授を基盤とし、映像表現分野とテクノロジー分野の交錯する領域において創造的思考力を発揮できるような人材、幅広い教養に通じ、歴史的背景を理解しながらも、変化する社会状況、技術・表現に適応し、新たな価値を産み出しうる映像表現者であり文化創造の担い手となる人材を養成する。

具体的な研究領域としては、静止映像としての写真表現及び時間や動きを含んだ映像としての映像表現であり、前者はケミカルフォト・デジタルフォト、後者はデジタルドラマ・映画・ドキュメンタリー・アニメーション・CG・メディアアート・サウンドアート・インタラクティブアート等が該当する。

造形構想学部のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

DP1	専門的な知識を理解し深めることができる。
DP2	専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
DP3	創造的思考力を深め広げる技能を身につけている。
DP4	他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
DP5	批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
DP6	論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
DP7	課題発見・解決に幅広い関心と高い意欲で取組、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

専門領域別 科目	選択必修			写真Ⅱ	CG＆アニメーションⅠ	
				写真Ⅲ	CG＆アニメーションⅡ	
				写真Ⅳ	CG＆アニメーションⅢ	
				メディアアートⅠ	イメージフェノメナンⅠ	
				メディアアートⅡ	イメージフェノメナンⅡ	
				メディアアートⅢ	モーションデザイン	
				映画技術	デジタルドラマⅡ	
				都市表現		
専門総合 科目	必修			映像・写真表現実習Ⅰ	映像・写真表現実習Ⅱ	
卒業制作					卒業制作・論文	